

大規模な発掘調査を実施しました！（下郷遺跡第34次調査）

令和5年4月17日（月）～11月20日（月）までの間、下郷遺跡第34次発掘調査を行いました。



A区全景



B区全景

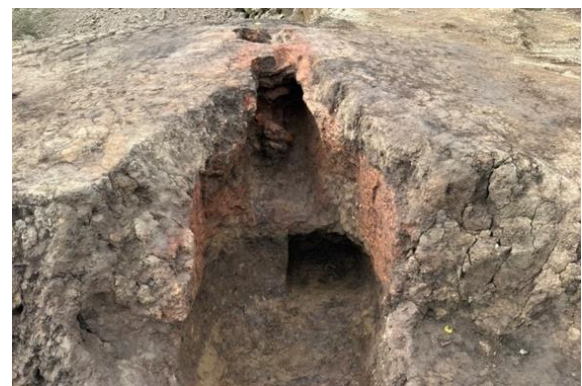
下郷遺跡は、深谷市東方地内に所在する遺跡です。過去の調査では、多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認されています。また、役人が使用したとみられる遺物も出土しており、隣接する幡羅官衙遺跡との強い関係性が示唆されます。

今回は、調査区をA区・B区の2つに分け調査を実施しました。その結果、竪穴建物跡85軒以上、掘立柱建物跡20基以上、粘土採掘坑5基、土坑90基以上など数多くの遺構が検出されました。

竪穴建物跡は主に7世紀～10世紀に属するものと考えられ、建物内部からは大量の土師器・須恵器片などが出土しました。中でも調査区南部に位置する第36号竪穴建物跡からは、残存状態の良いカマドが確認されました。このカマドはよく使いこまれており、火を受けた部分が硬く焼土化していました。



第36・37号竪穴建物跡 遺物出土状況



第36号竪穴建物跡 カマド検出状況